

1. 病棟の具体的な目標と評価

1) 安全で質の高い看護を提供する

BLS のシミュレーションと口腔ケアの勉強会を各 1 回ずつ実施し、病棟看護師の 50%程度が参加できた。入院患者の合併症(褥瘡・せん妄・廃用など)やリハビリプログラム作成の一環として、まずは入院患者の ADL を把握するためにベッドサイドにその患者のADLが一目で理解できるように絵札を表示した。それを参考に日常生活援助に取り組んでいる。

2) 病院経営に参画する

病床利用率は、4 月から 1 月中旬まで 77.3%であった。毎週、多職種カンファレンスを実施し他院や転院調整はできていた。適正な入院期間を確保するために眼科のパスを修正した。

3) 患者の視点に立った医療安全を推進する

今年度 4 月から 8 月の転倒転落インシデント 41 件であった。そのうち 3b以上は 0 件であった。その都度、新たな対策を考え、受け持ちやリーダー間で情報や対策や伝達はできた。今年度 4 月から 8 月の表皮剥離およびスキンテアは 11 件であった。MDRPU の発生は 0 件であった。劣化していたポジショニング枕を交換したことや耐圧分散マットやエアーマットの選択と適正使用に関して学習会を行えた。

4) 専門職としての能力開発に努める

ラダー I 申請者 5 名、ラダー II 申請者 4 名であった。勤務・業務調整を行い院内研修に参加した。副看護師長 1 名が「教育担当者育成研修」に参加した。

5) 看護の先輩として学生に関わり、質の高い看護職を確保する

平日に日勤勤務の多いスタッフが実習指導者として担当した。可能な限り、実習の際に実習指導者が対応できるよう体制を整えた。また、実習指導者が不在時は、学生指導の経験があるなど学生指導が適切に行えるスタッフを調整した。加えて、学生指導においては、論理的で丁寧は指導をすること、電子カルテ操作をやめ学生の挨拶をきくなどといった、スタッフへの指導を実習指導者が中心となり行った。

2. 病床運営状況

表 1 令和 6 年度 病床運営状況

収容可能 病床数 (床)	診療科名	月平均		平均在院 患者数 (人)	平均在院 日数(日)	病床 利用率(%)	病床 稼働率(%)
		新入院患者数(人)	退院患者数(人)				
48	総合診療内科 耳鼻咽喉科 皮膚科 眼科 形成外科	108.9	132	37.9	9.6	79.0	88.1

重症加算病床		有料個室		死亡者数(人/年)
病床数(床)	稼働率(%)	病床数(床)	稼働率(%)	
3	98.8	5	98.7	26

3. 看護体制

表 2 令和 6 年度 看護体制(令和 6 年 4 月 1 日現在)

配置人数(人)	看護方式	夜勤体制(準:深)
30	PNS [®]	3:3

4. 看護統計

1) 重症度、医療・看護必要度

表 3 令和 6 年度 一般病棟 重症度、医療・看護必要度 II

※2024.6 から急性期一般入院料 1 必要度区分 II とする

基準を満たす患者の割合(%)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
		38.6	35.1	37.6	35.2	28.5	35.0	36.7	32.6	33.2	30.3	29.9	30.0

2) 部署データ

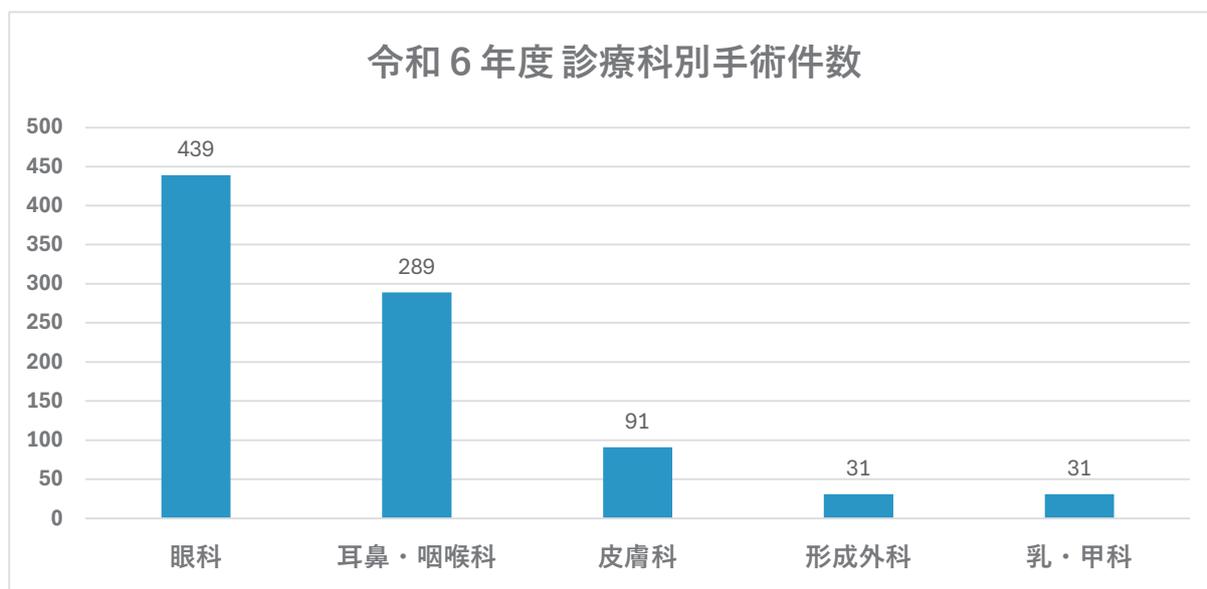


図1 令和 6 年度 診療科別手術件数